

古くて新しいふるさと山口市



長引くコロナ禍で皆さんが集まったり顔を会わせたりする機会が少なくなり、Zoom 会議等のリモート活用も盛んです。一方でワクチン接種が進んできたこともあり、七夕会では先日3月27日に春の交流会を「リアル」で開催させて頂きました。交流会の後、花見も実行することが出来ました。元気で顔を会わせることの大切さを実感した次第です。ただ、交流会での講演会では講師の方が Zoom での参加と初めての試みで行われました。しかし、講演内容の素晴らしさに加え、司会者のリードも抜群で Zoom での講演とは思えない程、聴衆が心を掴まれる結果となりました。リモートでの新しい講演会の形が生まれた様に思います。これもコロナあつての技術進歩かもしれません。

新しい事をもう一つ。従来七夕会の機関紙は会報と通信とに分かれていましたが、今回から「会報」に統一させて頂きます。発行回数は従来の会報・通信の合計と同様、年3回と変わりません。新しくなった会報にも是非皆様からのご寄稿をお願いしたいと思います。特に「ふるさと山口市」に関する情報の収集・拡大を期待しています。また会報での情報交換だけでなく、3年前から会則に規定された「ふるさと山口の発展に寄与する」という七夕会の目標に向け、首都圏の会員と地元山口の会員相互の交流を従来にも増して行います。これまで山口七夕会に関与して下さった多くの方々のご努力とご支援に改めて御礼申し上げると同時に、新しい形での七夕会の運営をお願いする次第です。

大内文化に支えられた山口市。室町時代からの大内文化の遺産である国宝瑠璃光寺五重塔は20年ぶりに檜皮葺の屋根を葺替える計画が進んでいます。七夕会もこの五重塔プロジェクトに協力してゆきたいと思っています。こうした古いものを大切に保存し、一方で新しい近代的な生活を確保してゆくのが山口市の文化です。新しい街になっても、地名・町名が「古き世の雅の街」=大内文化の香りを残しています。

故きを温ねて新しきを知るという観点からみても山口市ほど多くの道路を改良した町も珍しいと思います。古い町並みを残すより、近代的な生活を考え便利さも追求するのが山口流です。市役所も今回の新築で3回目。郵便局も昔の建物から数えて3回目。歴史を町名に残し建物や機能は近代化する山口市。さらに若い人々が町を盛り立ててくれることを期待しています。

すでに3年前から「山口七夕ふるさと大使」の委嘱が行われ、新しく逞しい活動が開始されています。この様な活動を通じて文化の香り漂う街「ふるさと山口市の発展に寄与する」為に今後とも七夕会を通じて努力して行きたく、会員皆様のご協力とご支援を賜りたいと思います。

令和4年(2022年)6月

山口七夕会 会長 秋草史幸

< 目次 >

頁1	秋草会長挨拶
頁2	目次
頁3	【コラム】中原中也と太宰治と檀一雄
頁4	【エッセイ】56歳にして初の日本一 (寛仁親王牌 第36回童謡こどもの歌コンクール金賞受賞)
頁5	【エッセイ】洞春寺と後河原
頁6	【紹介】渡辺豊子さんと弟さん執筆本のご紹介
頁7	【エッセイ】横浜 DeNA ベイスターズ山口後援会「長州星山会」
頁8	【リレーコラム】ふるさとの味めぐり「ふるうべるのカレー」
頁9	【コラム】三大発明
頁10	【レポート】2021 年度「本部 役員慰労忘年会」
頁11	【レポート】本部 春の講演会・交流会
頁13	【レポート】2022春の交流会後の「お花見ウォーキング」
頁14	【レポート】山口七夕会 親睦ゴルフ“第5回 八木重二郎杯”
頁15	【お知らせ】新入会員から一言
頁16	【お知らせ】各種お知らせ

中原中也と太宰治と檀一雄

頭木弘樹（会員 No. 804）
（文学紹介者）

山口市出身の文学者に、中原中也がいる。当時の吉敷郡山口町大字下宇野令村、今の湯田温泉の生まれだ。

その中原中也と、太宰治、檀一雄の交流を、檀一雄が書き残している。ご存じの方も多いだろうが、そこからいくつかのエピソードをご紹介します。

檀一雄は『火宅の人』などで有名な「最後の無頼派」と呼ばれる作家で、放蕩や放浪をくり返した。女優の檀ふみの父親だ。家に来た客に「馬肉を食べさせてやる」と言って家を出たまま、何日も戻らず、みんなが心配していると、なんと東京から長野まで買いに行っていたという、常識外れなエピソードのある人物だ。

その無頼派の檀一雄を、いつもひどい目に遭わせていたのが、太宰治。一般的には、なよなよした弱々しい印象があるが、じつは無頼派よりよほどひどい。なかでも有名なのが、熱海事件だ。

太宰治と檀一雄が、熱海に二人で逗留して、さんざん飲み食いして遊んで、飲み代や宿代が払えなくなってしまう、仕方ないんで、檀一雄を人質として宿に残して、太宰治はひとりで東京にお金を借りに行く。この状況は、まさに太宰治の『走れメロス』と同じ。

太宰は「あさってには帰ってくる」と言ったのだが、これが2日経っても帰ってこない。3日経っても帰ってこない。4日経っても、5日経っても帰ってこない。戻ってこないメロスなのだ。

とうとう借金取りのひとりがやってきて、このままじゃあ、どうしようもないから、太宰治を探しに行こうということになり、借金取りを連れて、檀一雄は太宰治をさがす。

太宰治の師匠にあたる、作家の井伏鱒二の家に行ってみると、そこに太宰治がいて、井伏鱒二のんきに将棋なんか指している。

檀一雄はかっとして、「何だ、君。あんまりじゃないか」と怒鳴りつける。すると、そこで太宰治の言った言葉が、これ。

「待つ身が辛いかね、待たせる身が辛いかね」

このひどい太宰治を、さらにひどい目に遭わせるのが、じつは中原中也だ。

中原中也は酒席で太宰治にからみ、「何だ、おめえは。青鯖が空に浮かんだような顔をしやがって」と難癖をつけ、「おめえは何の花が好きだい？」と聞いて、太宰治が「桃の花」と答えると、「チェッ、だからおめえは」と、ついには乱闘騒ぎになって、硝子戸を割る始末。

別の日にも、中也は太宰にからみ、太宰が家に逃げ帰ると、それを追って行き、太宰の妻が「いま眠っています」と言っても、「起こせばいいじゃねえか」と枕元にまで上がり込み、ついに見かねた檀一雄が中也を外へ引っ張り出し、雪の中へ投げ飛ばす。

中原はそれから車を拾って、川崎大島に行き、娼家で三円を二円に値切り、二円をさらに一円五十銭に値切って宿泊した。

明け方、一円五十銭を払う段になって、また一円に値切って、店を追い立てられる。雪が夜中の雨にまだらになっていた。そこで中也は、こう詠う。

汚れちまった悲しみに

今日も小雪の降りかかる

この詩は、こうして生まれたのだった。中也は車を拾って、知り合いの家に行き、車代は知り合いに払ってもらった。

檀一雄を太宰治がひどい目にあわせ、その太宰治を中原中也がひどい目にあわせ、その中也を檀一雄が投げ飛ばし、美しい詩が生まれたのだった。



3歳の中也と父母

56歳にして初の日本一（寛仁親王牌 第36回童謡こどもの歌コンクール金賞受賞）
ふるさと山口本部・音楽部会長 坂本哲也(会員 No. 470)

「お父さん、娘さんたちと一緒に出られませんか？」
次女と三女がピアノや声楽を習っている先生から、突然のお誘いがあった。



「はあ…。」
「あと2週間ほどで受け付けが終了するので、お父さんインターネットで申し込みしておいていただけますか？」

「はあ…。」
そう言われたのが昨年4月のことでした。

調べてみると、「寛仁親王牌

第36回童謡こどもの歌コンクール」とあった。毎年全国から数千組の応募があり子供部門、大人部門、ファミリー部門の3部門に分かれ、1次、2次審査を通過した21組だけが東京で行われるグランプリ大会に参加できるという歴史のあるコンクールのようだ。

冗談半分で「東京へタダで行けるかもよ！」と言うと、「行く行く！私飛行機に乗ってみたい！」「私ホテルに泊まれるんだ！」と娘たち。

いつか娘たちと一緒に歌を歌ってみたいという思いもあり、その日の夜に「ポチッ」と応募した。

1次審査を無事通過し、2次審査は8月暑中YAB(山口朝日放送)のスタジオで行われた。

関係者の方から「9月中旬くらいにはグランプリ大会に出場が決まった方へは連絡がありますので。」とその場を後にした。

夏休みも終わったある日、公園で子供たちと遊んでいると着信があり、でると電話の向こうから「童謡こどもの歌コンクール…」走り回りながらよく聞き取れなかったが、改めて聞き返すと「おめでとうございます！坂本ファミリーグランプリ大会出場が決まりました！」なんと…。

初フライトで緊張気味な娘たちを横目に「本当にこの日が来るとは…」と感慨に耽っている間に羽田空港へ。グランプリ大会の様子はBS朝日で放送されるため、前日に東京入りして、会場であるEXシアター六本木というところでリハーサル。すでに会場内のスピーカーからはリハーサル中の歌声が聴こえてくる。

「Oh…、まあここまで来ただけでも。」などと頭をよぎる。

ホテルに戻り、夕食時に先生から「実は今までこのグランプリ大会に4回程生徒さんを連れてきてて、全員入賞してるんですよ！銀賞と銅賞だけですけ

ど…。」

「ハハハ！じゃあ明日は金賞か入賞ならずか、どちらかですかね！」と笑ったが、軽いプレッシャーをかけていただいた。笑

大会当日、娘たちに「客席で聴いてくれているばあば（義母）に歌声を届けよう！」と本番へ。



そして結果発表、銅賞、銀賞、そして「ファミリー部門金賞は…〇〇」

一瞬何が起きたのかよくわから

なかった。が、舞台袖で号泣されている先生の姿が目にとまり思わず白髪交じりのおっさんの目にも涙が…。

表彰後、光栄なことに彬子女王の前でもう一度歌わせて頂いた。

帰山してからは大人部門で金賞受賞された山口高校2年生(当時)大倉光琉さんと一緒に伊藤市長を表敬させて頂いたり、山口県のメダル栄光を受賞したりと、今までの人生には無かったような経験をさせて頂きました。



表敬した際、「昨年新山口駅そばに建てられたKDDI維新ホールはEXシアター六本木を参考に作ったんです

よ。規模は2倍以上ですけど。」と市長。

「では今度娘たちといつかKDDI維新ホールで歌えるよう頑張ります！」と。

そして、その2か月後にKDDI維新ホール1周年記念コンサートがあり、なんとその舞台に娘達と一緒に歌を歌うことができました。

「なんということでしょう！」そんな番組もあったが、まさにそんな1年でした。

多くの人に支えられ、娘に恵まれ、そして何よりあのとき背中を押してくださった先生に大感謝。

「お父さん、娘さんたちと一緒に出られませんか？」

洞春寺と後河原

渡辺豊子（会員 No. 732）

静岡に住んでいる私が初めて七夕会に参加したのは2018年の12月でした。山高73期で同期の児玉秀文さんから講演と食事会に誘われ、浜松町の「別邸・福の花」に出かけました。洞春寺の住職・深野宗泉さんの講話と山口のお料理に引寄せられての参加でしたが、どんな会合か知らずに出席。長州の集まりという雰囲気の中、同期の奥原保さんや野村和造さんもお一緒に山口の長州とりや甘鯛麦味噌焼き、蒲鉾などの美味しいものを食べながら和やかな楽しい時間を過ごし、帰宅後に会員になりました。その時の深野住職のお話しは「明治維新150年&マル住職の15年」で私には馴染みある内容を興味深く拝聴しました。

私の実家は洞春寺の檀家です。祖父の笠原音五郎と小河虎彦代議士、洞春寺の先々代住職の3人は1つ違いの親しい仲で、祖父は洞春寺を好み先祖代々の故郷の墓には入らず小河さんと隣同士に墓を作ろうと約束しました。まだ荒野だった水汲場の隣に両家の墓地を求め観音堂の裏まで整地したのだそうで、洞春寺とは深いご縁があります。



私は子供の頃から洞春寺本堂の階段に座るのが好きでした。境内の景色を眺めていると何故か落ち着くのです。お盆の墓参りに行き本堂前に腰かけていると、気が遠くなるような蝉しぐれがいつも聞こえました。山口に旅行した知人が「洞春寺には清涼な『気』を感じる」と言ったのですが、それで私は洞春寺に惹かれるのかも知れません。

祖父の笠原音五郎は東亜工業（資）という会社を経営し、昭和11年4月から12年6月まで山口商工会議所の会長、昭和12年6月から18年まで会頭、戦後の21年から23年まで会頭と、戦前戦後の長きにわたって商工会議所の会長・会頭を務めました。山口商工会議所にある祖父の胸像は小

学1年の私が振袖を着て除幕式をしました。



実家は後河原にありましたが50年前に人手に渡り、今は「一の坂法律事務所」になって弁護士さんが住んでおられます。洋館も和館も外見は昔のままで、中だけモダンに素敵にリフォームされて庭のお手入れも行き届き、この家を好んで住んで下さっているのがとても有難いです。橋の向かいには昔は勧銀支店長社宅でした。ここに戦後は進駐軍の将校家族が住んでいたんですよ。進駐軍というと驚かれるけど、団塊世代の私の幼いかな記憶に残っています。桜、河鹿、蛍と、後河原は何て美しい故郷なんだろうと大人になってしみじみわかりました。

山高では、8月の山口同窓会幹事を50歳の年にやりますが、50歳で集まった時に73期女子の女子会ができました。以来20数年、ほぼ毎年女子会が場所を変えて開催され、静岡でも私が2回幹事をしました。祖父は山口線引き込み工事を請け負いましたが、静岡県内にもSLや機関車トーマス号が走る大井川鉄道があります。



写真は2019年5月に大井川鉄道に乗り、千頭で乗り換えて南アルプスアプトラインのトロック列車で奥大井湖上駅まで行った時のものです。

横浜 DeNA ベイスターズ山口後援会「長州星山会」

本部・副本部長 岡本達也（会員 No. 670）

山口に横浜 DeNA ベイスターズの山口後援会『長州星山会』があることをご存じですか？戦前の昔、下関の大洋漁業の「大洋ホエールズ」と言う球団がありましたが、皆さんその流れで山口の「ホエールズ」ファンが今の「ベイスターズ」ファンとなっています。私の現在 87 歳（昭和 10 年生まれ）になる親父（岡本清）も言わずと知れた根っからの「ホエールズ」&「ベイスターズ」ファンであります。『長州星山会』は、山口県から誕生したプロ野球チームを地元で応援しようと 1997 年（平成 9 年）に設立され、球場やテレビでの観戦、チーム談義に熱が入る交流会などを盛んに行っています。球団発祥の地である下関市の後援会とも交流しており、彦根八幡宮の優勝祈願祭には毎年参列しているようです。

今年の 3 月 6 日（日）にも湯田温泉のセントコアにて『長州星山会』の交流会がありました。2 列目センターには伊藤山口市長、その右側が親父で、左側が川口事務局長、左端はサンデー山口の開作社長であります。1 列目右から 2 人目は私の母校である山口大学の田中副学長です。



湯田温泉セントコアでの交流会

ここからは、横浜 DeNA ベイスターズの歴史を紹介しましょう。林兼商店（後の大洋漁業、現：マルハニチロ）の実業団チームとして 1929 年（昭和 4 年）5 月に山口県下関市で設立されました。戦後、1946 年 6 月に大洋漁業軟式野球部として復活、1948 年には国体で優勝し一躍名を上げます。1949 年 11 月に「株式会社まるは球団」を設立し、「大洋ホエールズ」の名称でセントラルリーグに加盟。下関市をフランチャイズとしました。読売ジャイアンツ、松竹ロビンス、大阪タイガース、広島カープ、中日ドラゴンズ、西日本パイレーツ、国鉄スワローズに大洋ホエールズの 8 球団で開幕しました。1950 年～1952 年の 3 シーズンが下関時代（大洋ホエールズ時代）であります。1953 年に松竹ロビンスと合併し「大洋松竹ロビンス」に改称した大阪時代（洋松ロビンス時代：1953 年～1954 年）、川崎時代（新大洋ホエールズ時代：1954 年～1977 年）と続き、1960 年（昭和 35 年）には三原監督のもと、前年最下位からのリーグ優勝を果たし、日本シリーズでも毎日大映（大毎）オリオンズ相手に全て 1 点差勝利の 4 連勝で日本一に輝きました。1978 年（昭和 53 年）に横浜スタジアムに移転し、都市名を入れた「横浜大洋ホエールズ」に改称しました。そして、忘れもしない 1998 年（平成 10 年）権藤監督の時、1960 年以來 38 年ぶりに日本一に輝きます。

1995 年、山口鑄銭司の親父から千葉の私に電話が入り、「横浜スタジアムの席を取れ！」の一言。38 年ぶりの日本シリーズに沸く横浜スタジアムが取れるかと思いき、保険のおばちゃんに頼み込みましたが、やはりダメで、なんとか対戦相手の西武球場の 2 席をゲットできました。喜ぶ親父が意気揚々と山口から上京し、我が家に泊まりながら、いざ敵陣に乗り込みましたが、惨敗。このままでは田舎に帰れんと嘆く親父は、そのまま、2 歳になる孫とテレビの前で応援を始めました。結果、4 勝 2 敗での日本一を勝ち取るのですが、途中、「お父さん、いつ山口に帰って来るん？」という母の電話に「勝つまでじゃろ」と苦しい返事をしたことを思い出します。その後は、ご存じ「横浜 DeNA ベイスターズ」に 2011 年 12 月に改称し、現在に至ります。親父はあれ以来の優勝をもう一度と願っています。

ふるさとの味めぐり「ぶるうべるのカレー」

本部・幹事長 関 周（会員 No. 726）

ふるさとの味、うーん、江戸金のラーメン、亀山のラーメンにチャーハン、春來軒のバリそば、ぶるうべるのカレー・・・何かなあ？ と考えていたら、全部、拙店「ミュージカンテあまね」で昔に出したことに気がついた。「え？ なんで？」

ときは2012年だからちょうど10年前のこと。母校、山口高校は50歳のときに同窓会の幹事をするのが伝統になっている。その打ち合わせのために同期がうちの店に来るようになった。毎月1回、10数名が集まり、2013年5月に催される東京同窓会の演目を相談、とは表向き、半分以上は単なる飲み会（笑）だった。

当時、Facebookが新しいSNSとして注目されていて、同窓会で繋がるには良いツールだろうと、山口、広島在住の同期と連携してネットワークを拡げていった。Facebook、飲み会では、ふるさとの話題、昔ばなし、食べものの話題で盛り上がった。やがて、気の利く山口在住の同期が、うちに同期が集まるタイミングで、ふるさとの味を送ってくれるようになった。それが、江戸金のラーメン、亀山のチャーハン、春來軒のバリそば、ぶるうべるのカレー等々である。

今でこそコロナ禍でテイクアウト、デリバリーは普通だけど、10年前は、ふるさとの味を東京の飲み会で頂けるのは、なかなか貴重だった。こちらは、出す方で大変だったけど、今となっては良い思い出である。江戸金のラーメンのときなんて、店内はもちろん、外まであの独特の匂いが漂って・・・「麺屋あまねかよ！」

一番大変だったのは、ぶるうべるのカレーだった。本番、2013年5月18日に行われた東京同窓会の二次会、同期が30数名、店に集合した日で、幹事を頑張ったみんなにカレーを振る舞って欲しいと、山口の同期がドーンと山ほどカレーを送ってきたのだ。「カレーはいいけど、ご飯はどうする？」うちは一応飲食店だが（笑）、アルコール中心でご飯はない。親しい近所の中華屋さんに、「すみませーん、ご飯を20合くらい、お願いします！」

いつもは自分ひとりで店を切り盛りしているが、さすがにその日はカレー提供があるので無理、妻に手伝ってもらった。宅急便で届いたぶるうべるのカレーを大鍋に移し、焦げつかないように温め、同期が盛り上がり、小腹が空いてきた頃を見計らって、出した。紙皿にひとり半人前、みんなペロリと食べたみたい。

ふるさとの味には、ふるさとの友がいるのだろう。ふるさとの思い出があるのだろう。美味しそうに食べる同期の友の姿が今でも目に焼きついている。「ぶるうべる」は一度閉店したが、新天地でリニューアルオープンすると噂に聞いた。帰山したら訪ねてみたい。



懐かしの「ぶるうべる」

== 三大発明 ==

副会長 渡邊 史信 (会員 No. 364)

世の中には色んな「三大・・・」があります。例えば「三名塔（勿論瑠璃光寺・法隆寺・醍醐寺）」 「三名山」 「三大文明」 「三大発明（火薬・羅針盤・活版印刷）」 「三大美人（楊貴妃・クレオパトラ・小野小町）」 「三天神（大宰府天満宮・北野天満宮・防府天満宮）」 「渡邊の欧州三大がっかり（ローレライ、小便小僧、人魚の像）」 等々諸説紛紛、やや我田引水のきらいもありますね。

スペイン駐在の時、口の悪い部下が「渡邊さん、宇宙から見える三大巨大物知っています？」 「ピラミド、万里の長城、・・・仁徳天皇陵かな？」 「最後が違います。渡邊さんの顔です！」・・・可愛い部下。

さて「人類の発展に貢献した近代科学の三大発明は？」というのがあります。これもいろいろありますが、私が気に入っているのをご紹介します。

- 1) 「労苦からの解放」・・・アルフレッド・ノーベルによるダイナマイトの発明(1867年特許出願) インフラ等建設開発工事に貢献。但し戦争に使われ多大な被害も生み出すこととなった。
- 2) 「飢餓からの解放」・・・フリッツ・ハーバーとカール・ボッシュによる工業的空中窒素固定によるアンモニアの製造(1906年)
- 3) 「病苦からの解放」・・・A. フレミングによるペニシリンの発見(1928年)

特に私の業務にも関係していた2) について言えば、この発明以前は単位面積あたりの農作物の生産量に土壌・養分的限界があるため、人類は常に飢餓と貧困に悩まされるという事実がありました。しかしハーバー・ボッシュ法による窒素固定化や過リン酸石灰等による皆さんご存じの「窒素N・リン酸P・加里K」の三大栄養素を含んだ化学肥料の誕生により、人類史上初めてこの限界が克服され、人口の飛躍的増加と近大文明の発達を迎えることとなったわけです。残念なのは人類の救世主たるべきアンモニアが毒ガスや爆薬にも応用されたことです。今後は発電や動力源としても注目されています。

更に最近の相対的な「金持ち・成熟」社会である先進国における自分達だけの健康志向でしょうか、化学肥料や農薬を使わない高コスト・稀少低生産量の有機栽培・自然農法・古式農法が喧伝されています。素晴らしいことだとは思いますが、こういった事は組み合わせとバランスの問題だと思います。一方的に他方を貶めて自らを正当化する手法は多々ありますが、世界中の人々が将来にわたって飢餓から解放され、自由で平和に暮らせるように、そして依然として厳しい環境や戦禍の中での暮らしている人々への穏やかな調和と思いやりを持ちたいと思います。



2021年度「本部 役員慰労忘年会」

本部・副本部長 岡本達也（会員 No. 670）

2021年12月18日（土）午前11時30分から令和3年度山口七夕会本部「役員慰労忘年会」を「やまぐち山海の恵み別邸福の花浜松町店」において会費制で開催しました。藤井本部長の司会進行で、秋草会長の挨拶から始まりました。

八木前会長の挨拶の中では、これまでの山口七夕会での思い出を話され、特に山縣元本部長との思い出話は微笑ましく思われました。引き続き、秋草会長より、これまでの慰労と感謝を込め、「大内塗りお椀セット」の記念品を添え、お花贈呈がありました。



秋草新会長から八木前会長へ花の贈呈



大内塗りお椀セット

次に、梶山前本部長から新役員の発表と役割分担説明があり、これまでの活躍を慰労し、秋草会長よりお花贈呈がありました。これまで山縣さんの後を引き継ぎ、本部長としてご苦労されてきた梶山さんからは、年末には山口市に帰還の上、新たな形で山口市に貢献するとの強い意思表示がありました。

また、この度、幹事を長年務められた本多さん、大嶋さんへもお花贈呈がされました。

さらに、繁永山口県東京事務所所長の挨拶の後、渡邊副会長の乾杯のご発声で慰労忘年会の歓談が始まりました。



梶山前本部長からの熱い意思表示

竹内顧問、山根顧問からの挨拶の後に申神さんからの祝辞を藤井本部長から代理披露がありました。

新役員として、小野さん、藤村さん、岡崎さん、関さんから挨拶があり、関さんからはアコーディオンと歌の披露もありました。



男性陣は元気



女性陣も元気

最後に、全員で山口市民の歌「ふるさとの風」を謳い、奥原副会長の中締めで大盛況のうち、お開きとなりました。なお、四月の山口市議会議員選挙では、梶山俊哉さんが新人当選されました。これからは他の七夕会議員の方々と共に、山口市の更なる発展に貢献されることを期待しております。

本部 春の講演会・交流会

本部・本部長代行 西村 弘文（会員 No. 464）

令和4年3月27日、飯田橋のインテリジェントロビー・ルコにて本部 春の交流会が開催されました。内容は、講演会と交流会の2本立てで、それぞれに35名と36名の参加を得ました。

講演会に先立ち、藤井本部長から開会の宣言と、お集まり頂いた皆さんへの御礼の挨拶があり、秋草会長からは、コロナ感染防止への配慮をしつつも顔を合わせて会員同士が懇親を深める機会を持てたことへの喜びと感謝が述べられました。

マイクがコーディネーター役の関幹事長に渡り、講演会が始まりました。今回は講師と会場とをWEBで繋いで講演を行う初の試みでした。講師である頭木弘樹さんは難病である潰瘍性大腸炎を患っておられるために家を離れることが困難であることがWEB講演を試みた最大の理由でしたが、関幹事長の準備よろしく、概ね円滑に進めることが出来、遠方にお住まいの方を講師として迎えることの検証が出来た、画期的な講演となりました。初期にメインスピーカーに音声に乗らなかったり、途中でパソコンの電源が落ちたりは、ほんのご愛敬です。

本題に入る前には関幹事長が頭木さんにインタビューする形でのやり取りがありました。頭木さんの人間性が感じられる内容でWEBの遠距離間が緩和され、本題の内容を理解するに効果が高かったと思います。頭木さんは山口県出身の文学紹介者で、現在は宮古島にお住まいです。

20歳の時に潰瘍性大腸炎に罹り、以来13年間の厳しい闘病生活を送り、絶望と闘う中でカフカの言葉に出会って救われた経験から「絶望名人カフカの人生論」を出版、以後「絶望読書―苦悩の時期私を救った本―」を始め多数の本を執筆されています。絶望と生について深く洞察されていて、高い感性を感じさせる人です。



藤井本部長の開会宣言



秋草会長の挨拶



WEB講演の様子

インタビューでは、宮古島に移住した当初に驚いたこととして、島の人にはニコリともせずを手助けし、親切にされても礼を言わない、人の列が長々と出来ている窓口で理解できるまで説明を求める人がいても少しもイライラせずに順番を待っている、等を紹介し、賞賛していました。「お互い様」が身に染みついて「当たり前」になっており、結果的に見ると時間が掛かることもなく、円滑に事が進むとのことでした。論語の子路第十三に「・・直きことその中にあり」とあったことを思い出します。理論として「正しきこと」よりも、人として「直きこと」の尊さを宮古島の人には知っているのでしょうか。「正しさ（正義）」は人それぞれに定義・内容が異なり、正しさの主張は時として争いを生み、息苦しさを高めます。頭木さんが賞賛する理由もここにあるのではないかと思います。



講演会の様子

本題では、金子みすゞと種田山頭火の詩の朗読に合わせ、2人の境遇について紹介されました。作者の境遇や時代背景を知ることは詩を解釈する上で非常に大切です。これまでは単に可愛い詩が多いと思っていた金子みすゞですが、旦那の女遊びが元で性病をうつされて愛娘との接触に気を遣い、縁がこじれて離婚する際に親権を奪われそうになったことを苦に若くして自殺したとのこと。後半の詩は絶望を抱えながら書いていたのかと思うと、これまでとは違った風景が思い浮かびました。山口県出身の詩人をより一層理解することが出来た、貴重な講演でした。

交流会は本部長の開会宣言に続き、渡邊副会長による乾杯の発声で始まりしました。コロナ対策のシールドを挟んでの歓談は面はゆいところがありますが、皆さんは時に耳に手を当てつつも会話・情報交換を楽しんでいたようでした。



交流会の様子

会の半ばには山口県東京事務所長の繁永顧問から山口県に関連する報告があり、余興として、前回の交流会から更に若さを増した92歳の岡本さんによる謡の舞と、秋草会長・渡邊副会長による17秒の男性合唱デュオが披露され、和気藹々とした場は更に盛り上がりました。

次の集まりは7月30日に予定されている夏の総会になりますが、コロナ禍の状況が許す限り開催すべく、準備を進めています。講話の内容も充実を図っていきたいと考えており、多くの方々の参加を期待しています。

また、同伴者の参加も大歓迎しています。より多くの方に山口七夕会の存在を知っていただけるよう、声がけにご協力下さい。

2022春の交流会後の「お花見ウォーキング」

本部・副本部長 岡本達也（会員 No. 670）

2022年の東京の桜開花日は3月20日(日)でありましたが、3月27日(日)の春の交流会後に恒例行事である「お花見ウォーキング」を開催しました。今回の参加者は事務局を含め11名でありました。最高齢92歳の岡本浩次さんを筆頭に、久永洋子さん、土光洋子さん、品川征志さん、利重尚義さん、柳井章雄さん、山根祥二さん、村中正司さん、事務局の藤井本部長、西村本部長代行、岡本でした。

春の後援会・交流会を飯田橋のルコで行った後、まずは皆さんで牛込濠の外堀沿いの満開桜の前で全員の記念撮影を田村幹事カメラマンで撮影しました。



写真1 牛込濠の桜の前で

牛込濠での記念撮影後に有志9名(後で藤井、西村合流)にて、靖国神社に向け出発しました。靖国神社の鳥居横には、令和元年の靖国神社創立150年記念事業として各都道府県の土を用いて現地の陶芸家達により製作・奉納された「さくら陶板」があります。山口県の「さくら陶板」の前でも記念撮影しました。

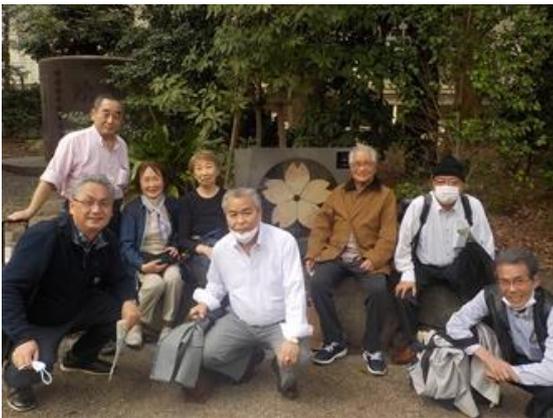


写真2 「さくら陶板」の前で

郷土の英雄、大村益次郎公銅像に見守られつつ、桜の標準木の開花状況を見ながら靖国神社に参拝しました。その後、桜の名所である千鳥ヶ淵に行き、ここでも記念撮影しました。



写真3 千鳥ヶ淵の桜の前で

田安門から日本武道館を通り、北の丸公園で千鳥ヶ淵の桜を裏側から堪能しました。お勧めです。

北の丸公園から北桔橋門を通り皇居東御苑に、そこで江戸城天守閣跡を見学。記念撮影です。



写真4 天守台の台上にて

皇居東御苑には二の丸庭園近くに昭和43年に各都道府県から寄贈された「都道府県の木」があります。山口県の木は「アカマツ」であり、皆で確認しました。

無事、ゴールの大手門で全員ウォーキング完歩され解散となりました。



写真5 「アカマツ」の前で



写真6 ゴールの大手門

山口七夕会 親睦ゴルフ “第5回 八木重二郎杯”

副会長／本部・本部長 藤井 謙志 (会員 No. 611)

ゴールデンウィークも終盤にさしかかった令和4年5月6日(金)、山口七夕会 親睦ゴルフである“第五回八木重二郎杯”が開催されました。場所はいつものPGM武蔵ゴルフクラブ (PGA 初代会長 安田幸吉 設計、埼玉県比企郡鳩山町大字小用 1026 番地) です。

一週間前までの週間天気予報では降水確率 80%と開催が危ぶまれる状況でしたが、ご参加の皆さま方の平素の行いの良さが為せる業か、当日は雲一つない快晴に恵まれました。



全員で記念写真

高速道路の道路交通状況はゴールデンウィーク中にもかかわらず極めてスムーズに流れており、行きの車中の会話も弾みました。車中で天下国家を論ずる会話が弾みすぎて降りるべきインターチェンジを通過してしまい、一般道でゴルフ場まで帰ってきたという車があったのもご愛敬、これも山口県人 気質と言うものでしょうか。道が空いていたお陰でクラブハウスに集まったメンバーの方々とモーニングコーヒーを喫しながら談笑した後、気持ちのよい朝の景色の中、ゆっくり練習場へと向かいました。

練習熱心な皆さんは集合時間になってもなかなか集まりません。ようやく全員集合したところで八木前会長からご挨拶を頂き、山口七夕会の旗とともに集合写真を撮ってよいよスタートホールへ移動です。今回は岡本達也さんが初参加で加わり、総勢 10 名 3 パーティーでの開催となりました

メンバーは山口愛にあふれた方が多く、関東のキャディーさんに山口弁を教えながらラウンドしたり、昔の中市通り/中市商店街の話に花を咲かせながら、手入れの行き届いた美しい芝の上を和気あいあいにプレイをされていました。18 ホール終了後、初参加の岡本さんはコースを評して「いいコースですね。特に 9 番ホールの為だけに建設された砂防ダムには感動しました。」とさすがスーパーゼネコン勤務ならではのプロのコメントもございました。

ホールアウト後はオミクロンの事もありますのでコースから直接クラブハウス内のレストランへ移動し、簡素化した表彰式を執り行いました。今回の栄えある優勝者は松本孝亮さん、準優勝は密田孝代さんです。松本さんは2度目の栄冠でした。おめでとうございます。



優勝した松本さん

表彰式終了後は各自のご判断で入浴、帰宅頂きましたが、表彰式を短縮化したため今回も帰りの高速は夕方の渋滞にかかることなくスムーズに帰宅できました。次回開催は令和4年11月4日(金)を予定しております。皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

※今回のご参加者：八木重二郎さん、梅田圭良さん、武内浩さん、松本孝亮さん、密田孝代さん、利重尚義さん、大枝幹夫さん、西村弘文さん、岡本達也さん、藤井謙志



< 新入会員から一言 >

【松本 一男さん 会員 No. 801】



幹事の岡崎さんにご紹介いただき、入会させていただきました。生まれは神戸ですが、母方の祖母が美禰郡大嶺村の出身で、山口大学経済学部を昭和 54 年に卒業しました。学生時代は、9 号線堅小路交差点の近くに下宿していました。卒業後三菱信託銀行に就職し 38 年勤務、その後農林中金の信託部門に 4 年半勤務し、今は朝ドラを見ながらの朝食などのんびり自由人生活を楽しんでおります。

趣味は低山散歩（高校時代は山岳部で北アルプスはほとんど登攀）、自転車（愛車はコルナゴとダホーン）、古本（主に中央線沿の店をパトロール）、近郊温泉巡り（高尾の極楽湯と国立温泉が特に良い）です。

山口には、恩師の安部一成先生がお亡くなりになってから久しく足が遠のいておりました。本会入会を機に、先生のお墓参り方々、一の坂川の蛍の頃にでも行きたく思っております。

どうぞよろしく願いいたします。

< 令和4年1月号以降の新入会員の皆さん >

会員番号	氏名	住所
795	鬼武 正彦	東京都中野区
796	さとう みちこ	山口県山口市
797	住田 輝明	山口県山口市
798	北條 邦彦	山口県山口市
799	馬越 尚史	山口県山口市
800	馬越 明美	山口県山口市
801	松本 一男	東京都国立市
802	山根 典子	山口県山口市
803	渡辺 純忠	山口県山口市
804	頭木 弘樹	東京都武蔵野市
805	高崎 聖也 (花柳寿寛聖)	東京都港区
806	粉川 妙	山口県山口市
807	Pibiri Roberto	山口県山口市

会員番号	氏名	住所
808	福澄 久美子	山口県山口市
809	児玉 純子	山口県山口市
810	寺岡 優子	山口県山口市
811	福田 智枝	山口県山口市
812	安河内 淳朗	山口県山口市
813	安田 芳三	東京都品川区
814	鈴川 篤志	山口県山口市
815	片山 優	山口県山口市
816	中村 晃子	山口県山口市
817	有村 宗和	山口県山口市
818	河村 香	山口県山口市
819	磯部 マキ	山口県山口市

R 4.5.31現在

< 令和4年1月号以降の新入法人会員の皆さん >

株式会社エフエム山口東京支社	株式会社竹内酒造場
C&C山口	セントコア山口

令和4年5月31日現在の会員数：個人会員365人、法人会員20法人

< 「新入会員から一言」を募集します >

当機関誌では、新入会員の皆さんからのコメントを掲載しており、令和3年10月以降に入会された皆さんからの投稿を募集します。記事の内容が次回の交流会等での話題にもなり、会員相互の繋がりを深める一助となりますので、ふるってコメントをお寄せください。

○書式

電子データ：Word、テキストなどで、400字程度の文書と投稿者の写真データ（スナップ写真で結構です。）

○内容

山口市との関わりを含めた自己紹介、七夕会への要望、意気込み、その他

※山口七夕会のホームページにこれまでの機関誌を掲載しています。令和3年6月号と令和4年1月号に「新入会員から一言」がありますので、参考にして下さい。

「山口七夕会」で検索の後、標題すぐ下の「会報・年誌・通信」タブから進みます。

○送付先

西村編集長PC（メールアドレス：joe-levin01@outlook.jp）

< 会報 山口七夕会 への投稿を募集します >

1. 表紙の書、写真、挿絵（書や山口ゆかりの写真、挿絵等を募集します。）
2. 大使の一言（「山口七夕ふるさと大使」の皆さんの自己紹介記事やメッセージを掲載します。）
3. 私の一言（次のテーマと要領で、皆さんからの投稿をお待ちしております。）

★募集テーマ

- (1) 山口市何でもランキング(山口市の全国ランキング関連情報、山口市が始まりの物品・慣習情報など)
- (2) 山口県外の山口「市」(「県」でも可です)ゆかりの地や名跡、建物紹介
- (3) 東京での同窓会活動(山口市内の小中高・大学・短大・専門学校等の同窓会活動情報)
- (4) 活動紹介(文化財保護やスポーツ選手後援会などの営利活動以外の活動紹介)

★字数

1,400～1,600 字程度(写真を2枚程度)

★投稿締切

9月号掲載の場合は8月中旬、1月号掲載の場合は12月中旬までに、編集長必着です。

★投稿提出先

編集長・西村のメールアドレス「joe-levin01@outlook.jp」へ、電子データ(Word、テキスト形式など)でお送りください。

<法人会員募集>

=法人会員（年会費1万円）を募集しています！=

～山口七夕会では、財政基盤の確立と組織の拡大のため、法人会員を募集しています！～

- 山口七夕会では、各事業年度内に原則3回、会員の皆さんに機関誌「会報 山口七夕会」を、市報「やまぐち」などの情報とともにお届けしています。
- 法人会員の皆さんには、各事業年度内に1回、チラシやパンフレット等を機関誌に同封してダイレクトメールとしてご活用いただくことができます。（単純に計算しますと、切手84円*現在の個人会員数365名=30,660円のコストが年会費1万円の法人会費に含まれることになります。）
- 会員の皆さんのご関係者やご懇意の法人様の紹介を宜しくお願いします。

※お問い合わせ、申し込みは、以下の山口事務局までお願いします

山口市七夕会事務局(山口市企画経営課内) 担当:岡村 TEL:083-934-2746

【編集後記】

今回から新米編集長の西村が編集を担当しました。また、これまで「会報」と「通信」の2種類あったものを「会報」に一本化しました。号数は、両者を合わせた連番としています。編集内容にご意見があればお寄せください。会員の全員で面白い会報にしていきたいと思います。山口市にかこつけて、言いたいこと、教えたいたいこと、自慢したいこと等々あれば、投稿の方もお願いします。企画の提案も歓迎です。

会報は山口七夕会ホームページにもアップしています。カラー版ですので、こちらもお覧下さい。

編集長(本部・本部長代行) 西村弘文

【事務局からのご案内】

- ◎転居されるご予約のある方は…転居予定日、転居先を任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。（ご連絡がないと会報 七夕会や市報等の資料が届かなくなってしまうです）
- ◎退会を希望される方は…退会されるのは残念ですが、任意の様式でかまいませんので、下記までご連絡ください。（会員録の整理などの事務手続に必要となります）

★山口七夕会事務局(山口市企画経営課内)
〒753-8650 山口市亀山町2番1号
TEL 083-934-2746
kikaku@city.yamaguchi.lg.jp

★本部
tanabata1999@pa2.so-net.ne.jp